

(証券コード5953)

2019年6月11日

株 主 各 位

福岡県糟屋郡宇美町大字宇美3351番地8

昭和鉄工株式会社

代表取締役社長 福 田 俊 仁

第97回定時株主総会招集ご通知

拝啓 平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、当社第97回定時株主総会を下記のとおり開催いたしますので、ご出席くださいますようご通知申し上げます。

なお、当日ご出席願えない場合は、書面により議決権を行使することができますので、お手数ながら後記の株主総会参考書類をご検討くださいますと、同封の議決権行使書用紙に議案に対する賛否をご表示いただき、2019年6月25日（火曜日）午後5時55分までに到着するようご送付いただきたくお願い申し上げます。

敬 具

記

1. 日 時 2019年6月26日（水曜日）午前10時
2. 場 所 福岡県糟屋郡宇美町大字宇美3351番地8
当社 宇美工場会議室（末尾のご案内図をご参照ください。）
3. 目 的 事 項
報 告 事 項
 1. 第97期（2018年4月1日から2019年3月31日まで）
事業報告の内容、連結計算書類の内容並びに会計監査人及び監査役会の連結計算書類監査結果報告の件
 2. 第97期（2018年4月1日から2019年3月31日まで）
計算書類の内容報告の件
決 議 事 項
 - 第1号議案 剰余金の処分の件
 - 第2号議案 取締役6名選任の件
 - 第3号議案 監査役1名選任の件

以 上

~~~~~  
当日ご出席の際は、お手数ながら同封の議決権行使書用紙を会場受付にご提出くださいますようお願い申し上げます。

事業報告、計算書類、連結計算書類及び株主総会参考書類に修正が生じた場合は、インターネット上の当社ウェブサイト (<http://www.showa.co.jp/>) に掲載させていただきます。

(添付書類)

## 事業報告

(2018年4月1日から  
2019年3月31日まで)

### 1. 企業集団の現況に関する事項

#### (1) 事業の経過及びその成果

当連結会計年度におけるわが国経済は、雇用情勢や所得環境の改善、民間設備投資の持ち直し等により、緩やかな回復基調が継続しました。一方で海外においては、米中貿易摩擦による世界経済への影響が懸念されるなど、引き続き先行き不透明な状況で推移しました。

このような情勢の中で当社グループは、中期経営計画「本業回帰で筋肉質な企業体質を実現する！」の4年目の年として、2019年度までに連結売上高120億円以上、安定的に連結売上高営業利益率4%以上を実現するため、重点課題である「事業の選択と集中」、「差別化新製品の開発」及び「固定費の最小化」に取り組んでまいりました。

また、中期経営計画達成のため、効果的な事業戦略を検討する「Project Skye」のもと、4つのタスクフォースを中心に改革を推進しました。

その結果、当連結会計年度の当社グループの売上高は123億3千8百万円（前連結会計年度比1.0%減）、受注高につきましては115億4千5百万円（同比8.8%減）となりました。

損益面では、売上高の減少や原材料費の高騰等により、経常利益は3億5千4百万円（前連結会計年度比28.0%減）となりました。

また、特別利益に事業譲渡益5千万円を計上した結果、親会社株主に帰属する当期純利益は2億5千9百万円（前連結会計年度比41.5%減）となりました。

事業セグメント別の業績は次のとおりであります。

#### [機器装置事業]

機器装置事業につきましては、熱源機器は業務用エコキュート、鋼板製ボイラーが低調に推移し、売上が減少しました。空調機器は直暖機器が低調に推移しましたが、エアハンドリングユニットが堅調に推移し、売上が増加しました。環境機器は循環温浴器が低調に推移し、売上が減少しました。また、サーモデバイス機器は熱処理炉の出荷が一部次年度へ延期したことが影響し、売上が減少しました。

その結果、当事業の売上高は76億2千3百万円（前連結会計年度比2.9%減）、受注高は67億7千5百万円（同比17.1%減）となりました。

[素形材加工事業]

素形材加工事業につきましては、景観製品は標準高欄が低調に推移し、売上が減少しました。鋳造品は精密鋳造品及び特殊鋳造品が堅調に推移し、売上が増加しました。

その結果、当事業の売上高は18億9千4百万円（前連結会計年度比4.5%増）、受注高は19億4千6百万円（同比6.3%増）となりました。

[サービスエンジニアリング事業]

サービスエンジニアリング事業につきましては、取替工事及び保守契約がほぼ前年度並みに推移しました。

その結果、当事業の売上高は28億2千万円（前連結会計年度比0.7%増）、受注高は28億2千3百万円（同比6.3%増）となりました。

セグメント別の売上高、受注高の状況は次のとおりであります。

|                | 売上高     |        | 受注高     |        |
|----------------|---------|--------|---------|--------|
|                | 金額(百万円) | 構成比(%) | 金額(百万円) | 構成比(%) |
| 機 器 装 置 事 業    | 7,623   | 61.8   | 6,775   | 58.7   |
| 素 形 材 加 工 事 業  | 1,894   | 15.4   | 1,946   | 16.9   |
| サービスエンジニアリング事業 | 2,820   | 22.8   | 2,823   | 24.4   |
| 合 計            | 12,338  | 100.0  | 11,545  | 100.0  |

## (2) 設備投資の状況

当連結会計年度は、機器装置事業におけるCAD図面自動作図システムの更新及び素形材加工事業における砂型鑄造用設備の更新を中心に総額3億4千4百万円の設備投資を実施いたしました。

これらの設備資金は、自己資金によってまかなっております。

## (3) 資金調達の状況

当連結会計年度の資金調達に関し、特記すべき事項はありません。

## (4) 財産及び損益の状況

| 区 分                           | 第 94 期<br>(2016年 3 月期) | 第 95 期<br>(2017年 3 月期) | 第 96 期<br>(2018年 3 月期) | 第 97 期<br>(2019年 3 月期)<br>(当連結会計年度) |
|-------------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|-------------------------------------|
| 受 注 高(百万円)                    | 12,711                 | 12,785                 | 12,661                 | 11,545                              |
| 売 上 高(百万円)                    | 10,915                 | 12,872                 | 12,464                 | 12,338                              |
| 経 常 利 益(百万円)                  | 202                    | 644                    | 492                    | 354                                 |
| 親会社株主に帰属する<br>当 期 純 利 益 (百万円) | 57                     | 512                    | 444                    | 259                                 |
| 1株当たり当期純利益 (円)                | 70.01                  | 629.53                 | 545.39                 | 318.86                              |
| 総 資 産(百万円)                    | 14,588                 | 14,867                 | 15,275                 | 15,157                              |
| 純 資 産(百万円)                    | 2,875                  | 3,840                  | 4,792                  | 4,762                               |

- (注) 1. 1株当たり当期純利益の算出は、期中平均株式数により算出しております。
2. 2017年10月1日を効力発生日として普通株式10株につき1株の割合で株式併合を行っております。第94期の期首に当該株式併合が行われたと仮定して1株当たり当期純利益を算定しております。
3. 『「税効果会計に係る会計基準」の一部改正』（企業会計基準第28号 平成30年2月16日）等を第97期から適用しており、第96期に係る財産及び損益の状況については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。
4. 各連結会計年度の主な変動要因は次のとおりであります。
- 第94期・・売上高はほぼ前年度並みでしたが、原価改善や固定経費削減に努め、大幅増の経常利益を計上いたしました。しかしながら、特別損失として関係会社株式売却損の計上により、親会社株主に帰属する当期純利益は前年度比減となりました。
- 第95期・・売上高が大きく伸長し、また原価改善に努めたことにより、大幅増の親会社株主に帰属する当期純利益を計上いたしました。
- 第96期・・前年度の特需により大幅に増収となった売上高の反動減に加え、特別損失として減損損失の計上等により、親会社株主に帰属する当期純利益は前年度比減となりました。
- 第97期・・当連結会計年度につきましては「(1)事業の経過及びその成果」に記載のとおりであります。

## (5) 対処すべき課題

今後の見通しにつきましては、わが国経済は雇用・所得環境の改善や堅調な設備投資等に支えられ回復基調の持続が期待される一方で、原材料高騰の影響や世界情勢の急激な変化により景気が下振れするリスクもあり、依然として先行き不透明な状況が続くものと予想されます。

このような情勢の中で当社グループは、2019年度を最終年度とする中期経営計画「本業回帰で筋肉質な企業体質を実現する！」を完結すべく、連結売上高120億円以上、安定的に連結売上高営業利益率4%以上を目指し、引き続き次の重点課題に取り組んでまいります。

### 1. 事業の選択と集中

- ・低収益事業の整理とコア事業への移行とともに、市場縮小製品から高成長製品への移行に取り組みます。
- ・燃焼技術、ヒートポンプ技術、電気ヒーター技術などのコア技術の応用展開と組合せによる顧客指向の製品開発に注力し、利益率の確保に取り組みます。
- ・さらなる事業の選択と集中のために、社外の協力を得ながら現状の事業分析を進め、新たな事業戦略を展開します。

### 2. 差別化新製品の開発

- ・ヒートポンプ技術の応用展開を図り、ヒートポンプ空調機器のラインナップ拡充とCO<sub>2</sub>ヒートポンプ給湯機の普及に注力します。
- ・燃焼機器の深化を図り、高効率化、低騒音化、低NO<sub>x</sub>化をさらに追求します。また、ヒートポンプのハイブリッド化など業務用給湯システムの実態に即した製品開発に取り組みます。
- ・電気ヒーター技術の応用展開を図り、半導体分野など新たな市場開拓を推進します。

### 3. 固定費の最小化

- ・スタッフ部門の少数精鋭化を図るとともに、事業直結以外の経費の削減を行います。
- ・代表取締役社長直轄の構造改革推進部において、基本の徹底（PDCA、5W1H、三現主義、報連相、見える化）によるムリ・ムダ・ムラの排除を含めた全社横断的な改革を推進します。

上記の重点課題の解決と目標達成のため、前年度まで効果的な事業戦略を検討する「Project Skye」に取り組んでまいりましたが、今後は、営業・サービスの顧客接点力強化、ヒートポンプ製品の開発と事業化、昭和生産システムの再構築、エアハンドリングユニットとファンコイルユニットの生産省力化の4つの改革を軌道に乗せるべく注力するとともに、2019年4月1日付で子会社である昭和ネオス株式会社を吸収合併したことにより新たな付加価値を生み出してまいります。

これからも『誠実を造り、誠実を売り、誠実をサービスする』の社是のもと、全力をつくして業績の向上と安定した収益基盤の確立に邁進していく所存であります。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## (6) 主要な事業内容

| 事業部門           | 事業内容                                                                                                             |
|----------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 機器装置事業         | ファンコイルユニット・エアハンドリングユニット等の空調機器、業務用エコキュート・ボイラー・ヒーター・バーナー・オユシス等の熱源機器、循環温浴器・空気清浄機等の環境機器、液晶パネル製造用熱処理炉等のサーモデバイス機器の製造販売 |
| 素形材加工事業        | 橋梁用防護柵等の景観製品、鋳造品等の製造販売                                                                                           |
| サービスエンジニアリング事業 | 空調機器、熱源機器等の一部販売・メンテナンス・取替工事及び給排水衛生設備等の設計・監理・施工の請負                                                                |

## (7) 主要な営業所及び工場

### ① 当社

| 名称    |        | 所在地      | 名称  |        | 所在地      |
|-------|--------|----------|-----|--------|----------|
| 本社    |        | 福岡県糟屋郡   | 営業所 | 下関営業所  | 山口県下関市   |
| 支社    | 東京支社   | 東京都大田区   |     | 九州営業所  | 福岡県糟屋郡   |
| 営業所   | 札幌営業所  | 北海道石狩市   |     | 南九州営業所 | 熊本県熊本市   |
|       | 仙台営業所  | 宮城県仙台市   |     | 鹿児島営業所 | 鹿児島県鹿児島市 |
|       | 北関東営業所 | 埼玉県さいたま市 | 工場  | 札幌工場   | 北海道石狩市   |
|       | 名古屋営業所 | 愛知県名古屋市  |     | 宇美工場   | 福岡県糟屋郡   |
| 大阪営業所 | 大阪府大阪市 | 古賀工場     |     | 福岡県古賀市 |          |
|       | 広島営業所  | 広島県広島市   |     |        |          |

(注) 当社は、2019年4月1日付で、九州営業所を九州支店とし、東京支社内に東京支店を新設いたしました。

### ② 子会社及び関連会社

| 社名             | 所在地    | 社名           | 所在地     |
|----------------|--------|--------------|---------|
| 昭和ネオス株式会社      | 福岡県福岡市 | 大連冰山空調設備有限公司 | 大連市(中国) |
| 昭和トータルサービス株式会社 | 福岡県糟屋郡 |              |         |

(注) 当社は、2019年4月1日付で子会社である昭和ネオス株式会社を吸収合併いたしました。

## (8) 重要な親会社及び子会社の状況

### ① 親会社の状況

該当事項はありません。

### ② 子会社の状況

| 会社名            | 資本金   | 出資率    | 主要な事業内容                   |
|----------------|-------|--------|---------------------------|
| 昭和ネオス株式会社      | 40百万円 | 100.0% | 空調機器、ボイラー等の販売・メンテナンス・取替工事 |
| 昭和トータルサービス株式会社 | 70百万円 | 100.0% | 業務請負、人材派遣及び不動産の管理・賃貸      |

- (注) 1. 特定完全子会社に該当する子会社はありません。  
2. 当社は、2019年4月1日付で子会社である昭和ネオス株式会社を吸収合併いたしました。

## (9) 従業員の状況

### ① 企業集団の従業員の状況

| 従業員数 | 前連結会計年度末比増減 |
|------|-------------|
| 383名 | 10名増        |

(注) 従業員数には、臨時パート社員及び嘱託は含んでおりません。

### ② 当社の従業員の状況

| 従業員数 | 前期末比増減 | 平均年齢  | 平均勤続年数 |
|------|--------|-------|--------|
| 326名 | 8名増    | 43.5歳 | 20.1年  |

(注) 従業員数には、臨時パート社員及び嘱託は含んでおりません。

## (10) 主要な借入先の状況

| 借入先          | 借入額(百万円) |
|--------------|----------|
| 株式会社福岡銀行     | 1,150    |
| 株式会社西日本シティ銀行 | 650      |
| 株式会社北九州銀行    | 550      |
| 株式会社三井住友銀行   | 475      |
| 株式会社十八銀行     | 400      |

(11) **その他企業集団の現況に関する重要な事項**

当社は、2018年11月14日開催の取締役会決議に基づき、営業・サービスの顧客接点力強化の推進及び顧客満足度と収益の最大化を図るため、2019年4月1日を効力発生日として子会社である昭和ネオス株式会社を吸収合併し、同社の資産、負債その他の権利義務の全部を承継いたしました。

## 2. 会社の株式に関する事項

### (1) 株式に関する事項

- |            |                            |
|------------|----------------------------|
| ① 発行可能株式総数 | 2,400,000 株                |
| ② 発行済株式の総数 | 814,249 株 (自己株式82,751株を除く) |
| ③ 株 主 数    | 826 名                      |

### (2) 大株主の状況 (上位10名)

| 株 主 名                   | 持 株 数 (株) | 持 株 比 率 (%) |
|-------------------------|-----------|-------------|
| 株 式 会 社 福 岡 銀 行         | 38,650    | 4.74        |
| 株 式 会 社 西 日 本 シ テ ィ 銀 行 | 38,500    | 4.72        |
| 株 式 会 社 北 九 州 銀 行       | 35,750    | 4.39        |
| 西 部 瓦 斯 株 式 会 社         | 34,500    | 4.23        |
| 西 日 本 鉄 道 株 式 会 社       | 29,100    | 3.57        |
| 飯 田 卓 子                 | 27,111    | 3.32        |
| 飯 田 久 泰                 | 26,700    | 3.27        |
| 林 久 江                   | 21,505    | 2.64        |
| 飯 田 吉 宣                 | 19,850    | 2.43        |
| 稲 田 好 美                 | 19,813    | 2.43        |

- (注) 1. 当社は自己株式 (82,751株) を保有しておりますが、上記の大株主からは除いております。  
2. 持株比率は、自己株式 (82,751株) を控除して計算しております。

### (3) その他株式に関する重要な事項

特記すべき事項はありません。

## 3. 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

## 4. 会社役員に関する事項

### (1) 取締役及び監査役の氏名等

| 会社における地位         | 氏 名     | 担当及び重要な兼職の状況                                             |
|------------------|---------|----------------------------------------------------------|
| 取締役社長<br>(代表取締役) | 福田 俊 仁  | CEO                                                      |
| 取締役              | 鍋 山 敏 郎 | 常務執行役員管理統括部長                                             |
| 取締役              | 倉 岡 淳   | 常務執行役員事業統括部長兼営業・サービス本部長                                  |
| 取締役              | 日 野 宏 昭 | 上級執行役員事業統括部技術・製造本部長兼構造改革推進部長                             |
| 取締役              | 村 瀬 廣 記 | 西部瓦斯株式会社 代表取締役副社長執行役員                                    |
| 取締役              | 松 尾 利 浩 | 西日本鉄道株式会社 上席執行役員                                         |
| 監査役(常勤)          | 山 根 讓 治 |                                                          |
| 監査役              | 吉 田 泰 彦 | 株式会社ふくおかフィナンシャルグループ<br>取締役執行役員<br>株式会社福岡銀行 代表取締役副頭取      |
| 監査役              | 村 上 英 之 | 株式会社西日本フィナンシャルホールディングス 取締役執行役員<br>株式会社西日本シティ銀行 取締役専務執行役員 |

- (注) 1. 取締役村瀬廣記氏及び松尾利浩氏は、会社法第2条第15号に定める社外取締役であります。  
 2. 監査役吉田泰彦氏及び村上英之氏は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。  
 3. 取締役村瀬廣記氏及び松尾利浩氏は、当社が両氏につき一般株主と利益相反が生じるおそれのない高い独立性を有していると判断し、福岡証券取引所の定めに基づく独立役員として同取引所に届け出ております。  
 4. 当事業年度中の取締役の異動は次のとおりであります。  
 ・2018年6月27日開催の第96回定時株主総会終結の時をもって、永利新一氏は取締役を退任いたしました。  
 ・2018年6月27日開催の第96回定時株主総会において、村瀬廣記氏は取締役に選任され、就任いたしました。  
 5. 取締役松尾利浩氏は、2019年4月1日付で西日本鉄道株式会社の上席グループ理事及び株式会社スピナの代表取締役社長に就任いたしました。  
 監査役吉田泰彦氏は、2019年4月1日付で株式会社ふくおかフィナンシャルグループの代表取締役副社長に就任いたしました。

### (2) 取締役及び監査役の報酬等の額

| 区 分 | 支給人員 | 報酬等の額 |
|-----|------|-------|
| 取締役 | 7名   | 71百万円 |
| 監査役 | 3名   | 14百万円 |
| 合 計 | 10名  | 85百万円 |

- (注) 1. 支給人員及び報酬等の額には、社外役員(社外取締役及び社外監査役)5名10百万円を含んでおります。  
 2. 取締役の支給人員及び報酬等の額には、2018年6月27日開催の第96回定時株主総会終結の時をもって退任した取締役1名を含んでおります。  
 3. 第69回定時株主総会(1991年6月27日)決議による取締役報酬限度額(使用人兼務取締役の使用人分の給与は含まない)は月額150万円以内、監査役報酬限度額は月額40万円以内であります。

### (3) 社外役員に関する事項

#### ① 重要な兼職先である他の法人等と当社との関係

- ・ 社外取締役村瀬廣記氏は、西部瓦斯株式会社の代表取締役副社長執行役員であります。なお、西部瓦斯株式会社は当社の大株主であり、当社は西部瓦斯株式会社及びその関係会社との間に一般消費者としての通常の取引関係がありません。
- ・ 社外取締役松尾利浩氏は、西日本鉄道株式会社の上席執行役員であります。なお、西日本鉄道株式会社は当社の大株主であり、当社は西日本鉄道株式会社及びその関係会社との間に一般消費者としての通常の取引関係があります。
- ・ 社外監査役吉田泰彦氏は、株式会社ふくおかフィナンシャルグループの取締役執行役員及び株式会社福岡銀行の代表取締役副頭取であります。なお、株式会社ふくおかフィナンシャルグループの子会社である株式会社福岡銀行は当社の大株主であり、当社は株式会社福岡銀行との間に借入等の取引関係がありません。
- ・ 社外監査役村上英之氏は、株式会社西日本フィナンシャルホールディングスの取締役執行役員及び株式会社西日本シティ銀行の取締役専務執行役員であります。なお、株式会社西日本フィナンシャルホールディングスの子会社である株式会社西日本シティ銀行は当社の大株主であり、当社は株式会社西日本シティ銀行との間に借入等の取引関係があります。

#### ② 当事業年度における主な活動状況

| 氏名   | 区分    | 出席状況及び発言状況                                                                                   |
|------|-------|----------------------------------------------------------------------------------------------|
| 村瀬廣記 | 社外取締役 | 就任後開催の取締役会10回中7回に出席し、主に経営の豊富な経験を通じて培った高い見識から、当社の経営上有用な発言を適宜行っております。                          |
| 松尾利浩 | 社外取締役 | 当事業年度開催の取締役会13回中9回に出席し、主に経営の豊富な経験を通じて培った高い見識から、当社の経営上有用な発言を適宜行っております。                        |
| 吉田泰彦 | 社外監査役 | 当事業年度開催の取締役会13回中10回に出席し、また当事業年度開催の監査役会10回中7回に出席し、主に銀行業務を通じて培った豊富な経験から、当社の経営上有用な発言を適宜行っております。 |
| 村上英之 | 社外監査役 | 当事業年度開催の取締役会13回中11回に出席し、また当事業年度開催の監査役会10回中8回に出席し、主に銀行業務を通じて培った豊富な経験から、当社の経営上有用な発言を適宜行っております。 |

③ 責任限定契約の内容の概要

当社は社外役員全員と会社法第423条第1項の賠償責任を限定する契約を締結しており、当該契約に基づく賠償の限度額は法律が規定する最低責任限度額であります。

④ 当社の子会社から当事業年度において役員として受けた報酬等の額  
該当事項はありません。

## 5. 会計監査人に関する事項

### (1) 会計監査人の名称

有限責任監査法人トーマツ

### (2) 会計監査人の報酬等の額

|                                  | 支 払 額 |
|----------------------------------|-------|
| ①会計監査人の報酬等の額                     | 32百万円 |
| ②当社及び当社子会社が支払うべき金銭その他の財産上の利益の合計額 | 32百万円 |

- (注) 1. 当社と会計監査人との間の監査契約において、会社法に基づく監査と金融商品取引法に基づく監査の報酬等の額を区分しておらず、実質的にも区分できないため、①の支払額にはこれらの合計額を記載しております。
2. 監査役会は、取締役、社内関係部署及び会計監査人から必要な資料を入手し、かつ報告を受け、会計監査人の監査計画の内容、会計監査の職務遂行状況及び報酬見積りの算出根拠等が適切であるかについて確認し、検討した結果、会計監査人の報酬等について会社法第399条第1項の同意を行っております。

### (3) 会計監査人の解任または不再任の決定の方針

監査役会は、会計監査人の職務の執行に支障がある場合など、その必要があると判断した場合は、株主総会に提出する会計監査人の解任または不再任に関する議案の内容を決定いたします。

また、監査役会は、会計監査人が会社法第340条第1項各号に定める項目に該当すると認められる場合は、監査役全員の同意に基づき、会計監査人を解任いたします。この場合、監査役会が選定した監査役は、解任後最初に招集される株主総会において、会計監査人を解任した旨及びその理由を報告いたします。

## 6. 業務の適正を確保するための体制の整備に関する事項

### (1) 当社及び子会社の取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

- ① コンプライアンス体制に係る「企業倫理規範」及び「企業行動指針」を制定し、当社及び子会社の役員及び使用人が法令及び定款を遵守するとともに、企業倫理を自ら実践します。
- ② 取締役会の経営監督機能を強化し、かつ独立した公正な立場から経営判断に対するアドバイスを受けるため、社外取締役の招聘に努めます。
- ③ 法令遵守の徹底を図るため、当社及び子会社の役員及び使用人より構成されるコンプライアンス委員会を設置し、コンプライアンス体制の適正運用を進めています。

また、法令違反等の未然防止と早期発見のため、内部通報・相談制度（コンプライアンスホットライン）を設置しています。

- ④ 財務報告に係る内部統制システムの信頼性を確保するため、代表取締役社長直轄の内部監査室において業務の文書化及び的確な報告プロセスの整備を統括するとともに、内部統制の基本的要素の有効性を評価したうえで必要な改善を推進しています。
- ⑤ 社会の秩序や企業の健全な活動に脅威を与える反社会的勢力に対しては、「恐れない、金を出さない、利用しない」の原則を守ります。

また、警察及び関係省庁並びに顧問弁護士等との密接な連携を図り、反社会的勢力に関する情報と適切な助言や協力を確保できる体制をとっています。

### (2) 当社の取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

- ① 取締役の職務の執行に係る文書その他の情報（以下、「文書等」という）については、「文書管理規程」に基づき適切に保存し、かつ管理を行っています。
- ② 取締役及び監査役は、文書等を常時閲覧できるものとしています。

### (3) 当社及び子会社の損失の危険の管理に関する規程その他の体制

- ① 組織横断的リスク状況の監視及び全社的対応は総務部が行い、各部門（子会社及び関連会社を含む）の所管業務に付随するリスク管理は当該部門が行っています。
- ② 各部門（子会社及び関連会社を含む）において、リスク管理に係る各種社内規程を見直し、必要に応じてリスク管理の観点から規程の制定を行います。

### (4) 当社及び子会社の取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

- ① 執行役員制度の運用により、意思決定と業務執行の機能分離を図り、取締役会を活性化するとともに、経営意思決定を迅速に行う体制をとっています。

- ② 定例の取締役会や常勤役員会の他、執行役員を含めた経営会議を開催し、経営計画及び各部門（子会社及び関連会社を含む）の業務計画について、進捗状況及び施策の実施状況等を定期的に確認し、必要な検討を行っています。
  - ③ 通常の職務の執行は、職務権限に係る社内規程に基づき、適切かつ効率的に行っています。
- (5) **当社及び子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制並びに子会社の取締役の職務の執行に係る事項の当社への報告に関する体制**
- ① 当社と子会社及び関連会社との間における不正な取引や会計処理を防止するため、当社において指導及び内部統制に関する対応支援を行っています。
  - ② 子会社及び関連会社の管理に関する「関係会社管理規程」により、子会社及び関連会社に係る一定の事項については、事前に当社と協議し、承認を得ることとしています。  
また、子会社及び関連会社の取締役の職務の執行に係る事項については、当社はいつでも子会社及び関連会社に必要な報告を求めることができますものとしています。
- (6) **当社の監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項並びに当該使用人の当社の取締役からの独立性に関する事項及び当社の監査役の当該使用人に対する指示の実効性の確保に関する事項**
- ① 監査役は、必要に応じて総務部その他の使用人に対し、監査に必要な業務を命令することができます。
  - ② 監査役の職務を補助する使用人は、その業務に関して取締役の指揮命令を受けずに、監査役の指示に誠実に従わなければならないこととしています。  
また、当該使用人の人事異動等については、監査役の意見を尊重することとしています。
- (7) **当社の取締役及び使用人が当社の監査役に報告をするための体制及び子会社の取締役、監査役、使用人又はこれらの者から報告を受けた者が当社の監査役に報告をするための体制並びに報告をした者が当該報告をしたことを理由として不利な取扱いを受けないことを確保するための体制**
- ① 当社及び子会社の役員及び使用人は、当社の監査役に対し、法令及び定款に違反する事項、会社に著しい影響を及ぼす事項及び経営状況に関する事項について、速やかに報告する体制をとるとともに、当社の監査役はいつでも当社及び子会社の役員及び使用人に必要な報告を求めることができますものとしています。

- ② 当社の監査役に報告をした者に対し、当該報告をしたことを理由として不利な取扱いを行うことを禁止し、その旨を当社及び子会社の役員及び使用人に周知徹底します。
- (8) 当社の監査役の職務の執行について生ずる費用の前払又は償還の手続その他の当該職務の執行について生ずる費用又は債務の処理に係る方針に関する事項  
監査役の職務の執行について生ずる費用については、監査に必要な予算を計上し、当該予算内で適正に管理しています。  
また、緊急又は臨時に支出した費用については、監査役の請求に応じて償還することとしています。
- (9) その他当社の監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制
- ① 代表取締役社長は、監査役と定期的に会合を行い、意思の疎通を図っています。
- ② 監査役の監査が実効的に行われることを確保するため、内部監査室と経理部、総務部及び経営企画室の担当役員は連携し、監査役の要求に応じた支援体制をとることとしています。

## 当該体制の運用状況の概要

### (1) コンプライアンス体制

- ① 法令遵守の徹底と法的リスクの最小化の観点から、当社及び子会社の役員及び使用人を対象にコンプライアンスの基本を理解するためのDVD講習会を開催する他、日々の業務遂行において留意すべき事項やコンプライアンスホットラインの活用について改めて周知徹底しました。
- ② コンプライアンス委員会では、年2回のコンプライアンスに関するモニタリングを実施する他、コンプライアンスホットラインへの通報及び相談に対して都度迅速に対応しております。  
また、当社及び子会社の役員及び使用人を対象に「労働問題」をテーマとした社内講習会を開催しました。

### (2) リスク管理体制

- ① 業務遂行におけるリスク低減対策等の取組み状況を発表するリスクアセスメント運動発表大会を年1回開催しております。
- ② 当社及び子会社の役員及び使用人に対し、5S推進委員会、安全衛生委員会等の各種委員会から日常のリスク管理について通知啓発しております。  
また、内部監査室は、会計監査人と連携して業務プロセスに係る内部統制を見直し、抜打ち監査や証憑の整合性の精査を重点的に行い、是正対策に注力しました。

### (3) 取締役及び監査役の職務の執行

- ① 独立性の高い社外取締役を2名選任し、経営に関する豊富な経験と専門的見地から、取締役会等において議案審議に有用な意見や助言を受けるなど、経営に対する監督機能の強化を図っております。

また、当事業年度より社外役員にタブレット端末を配布し、取締役会等への出席率の維持向上とテレビ会議システムを利用した効率的な議案審議を行える環境を整備しました。

- ② 当社は、取締役会を原則として毎月1回開催する他、当事業年度において、常勤監査役及び執行役員を含めた常勤役員会を25回、経営会議を12回開催し、経営計画の進捗状況及び施策の実施状況等を確認するとともに、必要な検討を行いました。
- ③ 監査役は、当事業年度において、監査役会を10回開催する他、代表取締役社長との意見交換会を3回開催（そのうち2回は社外取締役も参加）しました。
- また、適宜、会計監査人との意見交換も実施しております。
- ④ 当社の株主及び債権者の権利である法定書類の閲覧謄写等の手続を整備するため、「法定書類閲覧謄写等規程」を改正しました。

---

(注) 本事業報告中の記載金額及び持株比率は、表示単位未満の端数を切り捨てて表示しております。

## 連結貸借対照表

(2019年3月31日現在)

(単位：百万円)

| 科 目       | 金 額    | 科 目          | 金 額    |
|-----------|--------|--------------|--------|
| (資産の部)    |        | (負債の部)       |        |
| 流動資産      | 9,080  | 流動負債         | 7,196  |
| 現金及び預金    | 2,979  | 支払手形及び買掛金    | 2,812  |
| 受取手形及び売掛金 | 3,681  | 短期借入金        | 3,175  |
| 電子記録債権    | 403    | 未払費用         | 486    |
| 商品及び製品    | 210    | 未払法人税等       | 64     |
| 仕掛品       | 1,397  | 設備関係支払手形     | 93     |
| 原材料及び貯蔵品  | 328    | その他          | 565    |
| その他       | 84     | 固定負債         | 3,197  |
| 貸倒引当金     | △4     | 長期借入金        | 637    |
| 固定資産      | 6,076  | 退職給付に係る負債    | 2,022  |
| 有形固定資産    | 2,607  | 繰延税金負債       | 190    |
| 建物及び構築物   | 737    | その他          | 346    |
| 機械装置及び運搬具 | 255    | 負債合計         | 10,394 |
| 土地        | 1,411  | (純資産の部)      |        |
| その他       | 203    | 株主資本         | 4,320  |
| 無形固定資産    | 100    | 資本金          | 1,641  |
| 投資その他の資産  | 3,369  | 資本剰余金        | 1,225  |
| 投資有価証券    | 2,915  | 利益剰余金        | 1,602  |
| 繰延税金資産    | 12     | 自己株式         | △148   |
| その他       | 601    | その他の包括利益累計額  | 441    |
| 貸倒引当金     | △160   | その他有価証券評価差額金 | 769    |
|           |        | 為替換算調整勘定     | 57     |
|           |        | 退職給付に係る調整累計額 | △385   |
|           |        | 純資産合計        | 4,762  |
| 資産合計      | 15,157 | 負債及び純資産合計    | 15,157 |

(注) 記載金額は、百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

# 連結損益計算書

(2018年4月1日から  
2019年3月31日まで)

(単位：百万円)

| 科 目               | 金   | 額      |
|-------------------|-----|--------|
| 売 上 高             |     | 12,338 |
| 売 上 原 価           |     | 9,468  |
| 売 上 総 利 益         |     | 2,870  |
| 販売費及び一般管理費        |     | 2,520  |
| 営 業 利 益           |     | 349    |
| 営 業 外 収 益         |     |        |
| 受 取 利 息 及 び 配 当 金 | 86  |        |
| 雑 収 入             | 59  | 146    |
| 営 業 外 費 用         |     |        |
| 支 払 利 息           | 46  |        |
| 持分法による投資損失        | 51  |        |
| 雑 支 出             | 43  | 140    |
| 経 常 利 益           |     | 354    |
| 特 別 利 益           |     |        |
| 事 業 譲 渡 益         | 50  | 50     |
| 税金等調整前当期純利益       |     | 404    |
| 法人税、住民税及び事業税      | 119 |        |
| 法 人 税 等 調 整 額     | 25  | 145    |
| 当 期 純 利 益         |     | 259    |
| 親会社株主に帰属する当期純利益   |     | 259    |

(注) 記載金額は、百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

## 連結株主資本等変動計算書

(2018年4月1日から  
2019年3月31日まで)

(単位：百万円)

|                         | 株 主 資 本 |           |           |         |             |
|-------------------------|---------|-----------|-----------|---------|-------------|
|                         | 資 本 金   | 資 本 剰 余 金 | 利 益 剰 余 金 | 自 己 株 式 | 株 主 資 本 合 計 |
| 当 期 首 残 高               | 1,641   | 1,225     | 1,407     | △148    | 4,126       |
| 当 期 変 動 額               |         |           |           |         |             |
| 剰 余 金 の 配 当             |         |           | △65       |         | △65         |
| 親会社株主に帰属する<br>当 期 純 利 益 |         |           | 259       |         | 259         |
| 自己株式の取得                 |         |           |           | △0      | △0          |
| 株主資本以外の項目の<br>当期変動額(純額) |         |           |           |         |             |
| 当期変動額合計                 | -       | -         | 194       | △0      | 194         |
| 当 期 末 残 高               | 1,641   | 1,225     | 1,602     | △148    | 4,320       |

(単位：百万円)

|                         | その他の包括利益累計額      |          |                  |                   | 純 資 産 合 計 |
|-------------------------|------------------|----------|------------------|-------------------|-----------|
|                         | その他有価証券<br>評価差額金 | 為替換算調整勘定 | 退職給付に係る<br>調整累計額 | その他の包括利益<br>累計額合計 |           |
| 当 期 首 残 高               | 1,009            | 86       | △429             | 665               | 4,792     |
| 当 期 変 動 額               |                  |          |                  |                   |           |
| 剰 余 金 の 配 当             |                  |          |                  |                   | △65       |
| 親会社株主に帰属する<br>当 期 純 利 益 |                  |          |                  |                   | 259       |
| 自己株式の取得                 |                  |          |                  |                   | △0        |
| 株主資本以外の項目の<br>当期変動額(純額) | △239             | △29      | 44               | △223              | △223      |
| 当期変動額合計                 | △239             | △29      | 44               | △223              | △29       |
| 当 期 末 残 高               | 769              | 57       | △385             | 441               | 4,762     |

(注) 記載金額は、百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

## 連 結 注 記 表

### 連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項に関する注記等

#### 1. 連結の範囲に関する事項

|          |                             |
|----------|-----------------------------|
| 連結子会社の数  | 2社                          |
| 連結子会社の名称 | 昭和ネオス株式会社<br>昭和トータルサービス株式会社 |

#### 2. 持分法の適用に関する事項

|                 |              |
|-----------------|--------------|
| 持分法を適用した関連会社の数  | 1社           |
| 持分法を適用した関連会社の名称 | 大連氷山空調設備有限公司 |

#### 3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

全ての連結子会社の決算日は連結決算日と一致しております。

#### 4. 会計方針に関する事項

##### (1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

###### ① 有価証券の評価基準及び評価方法

その他有価証券

時価のあるもの……………期末日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております。）

時価のないもの……………移動平均法による原価法

###### ② たな卸資産の評価基準及び評価方法

製品・商品及び仕掛品……………主として総平均法

原 材 料……………移動平均法

なお、評価基準については、原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）によっております。

##### (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

###### ① 有形固定資産

（リース資産を除く）

主として定率法によっております。主な耐用年数は、建物及び構築物（3年～50年）、機械装置及び運搬具（4年～12年）であります。

###### ② 無形固定資産

（リース資産を除く）

定額法によっております。

なお、ソフトウェア（自社利用分）については、社内における利用可能期間（5年）で償却しております。

- ③ リース資産
- 所有権移転外ファイナンス・リース取引は、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。
- (3) 重要な引当金の計上基準
- 貸倒引当金
- 債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。
- (4) その他連結計算書類の作成のための重要な事項
- ① 退職給付に係る負債
- 従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当連結会計年度末において発生していると認められる額を計上しております。
- なお、退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。
- 数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理することとしております。
- ② 消費税等の会計処理
- 税抜方式によっております。

## 表示方法の変更

『税効果会計に係る会計基準』の一部改正（企業会計基準第28号 平成30年2月16日）に伴う、「会社法施行規則及び会社計算規則の一部を改正する省令」（法務省令第5号 平成30年3月26日）を当連結会計年度から適用し、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示する方法に変更しております。

## 連結貸借対照表に関する注記

### 1. 担保に供している資産及び担保に係る債務

#### (1) 担保に供している資産

|           |                 |
|-----------|-----------------|
| 現金及び預金    | 73百万円           |
| 受取手形及び売掛金 | 275百万円          |
| 建物及び構築物   | 65百万円           |
| 機械装置及び運搬具 | 0百万円            |
| 土地        | 364百万円          |
| 投資有価証券    | 476百万円          |
| 合 計       | <u>1,256百万円</u> |

#### (2) 担保に係る債務

|                    |                 |
|--------------------|-----------------|
| 短期借入金              | 1,325百万円        |
| 長期借入金(1年内返済予定額を含む) | 271百万円          |
| 合 計                | <u>1,597百万円</u> |

2. 有形固定資産の減価償却累計額 7,498百万円

## 連結損益計算書に関する注記

該当事項はありません。

## 連結株主資本等変動計算書に関する注記

### 1. 発行済株式の種類及び総数

| 発行済株式の種類 | 当連結会計年度期首株式数 | 当連結会計年度末株式数 |
|----------|--------------|-------------|
| 普通株式(株)  | 897,000      | 897,000     |

### 2. 自己株式の種類及び株式数

| 自己株式の種類 | 当連結会計年度期首株式数 | 当連結会計年度末株式数 |
|---------|--------------|-------------|
| 普通株式(株) | 82,659       | 82,751      |

### 3. 配当に関する事項

#### (1) 配当金支払額

| 決議                   | 株式の種類 | 配当金の総額 | 1株当たり配当額 | 基準日        | 効力発生日      |
|----------------------|-------|--------|----------|------------|------------|
| 2018年6月27日<br>定時株主総会 | 普通株式  | 65百万円  | 80円00銭   | 2018年3月31日 | 2018年6月28日 |

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

2019年6月26日開催の定時株主総会の議案として、普通株式の配当に関する事項を次のとおり提案しております。

| 株式の種類 | 配当金の総額 | 1株当たり配当額 | 基準日        | 効力発生日      |
|-------|--------|----------|------------|------------|
| 普通株式  | 40百万円  | 50円00銭   | 2019年3月31日 | 2019年6月27日 |

なお、配当原資については、利益剰余金とすることとしております。

### 金融商品に関する注記

#### 1. 金融商品の状況に関する事項

当社グループは、主に空調機器、熱源機器、熱処理炉、各種鋳物製品製造販売事業を行うための設備投資計画等に照らして、必要な資金を金融機関からの借入により調達しております。なお、一時的な余資は銀行預金または安全性の高い債券等に限定して運用しております。

受取手形及び売掛金並びに電子記録債権に係る顧客の信用リスクは、与信限度管理基準に沿ってリスク低減を図っております。また、投資有価証券は主として業務上の関係を有する会社の株式であり、定期的に時価や財政状態を把握し、発行会社との関係を勘案したうえで、継続保有の検討を行っております。

借入金の使途は運転資金及び設備投資資金であります。

#### 2. 金融商品の時価等に関する事項

2019年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

| 区分           | 連結貸借対照表<br>計上額(百万円) | 時価<br>(百万円) | 差額<br>(百万円) |
|--------------|---------------------|-------------|-------------|
| 現金及び預金       | 2,979               | 2,979       | —           |
| 受取手形及び売掛金    | 3,681               | 3,681       | —           |
| 電子記録債権       | 403                 | 403         | —           |
| 有価証券及び投資有価証券 |                     |             |             |
| その他有価証券      | 2,696               | 2,696       | —           |
| 資産計          | 9,760               | 9,760       | —           |
| 支払手形及び買掛金    | 2,812               | 2,812       | —           |
| 短期借入金        | 3,175               | 3,175       | —           |
| 未払法人税等       | 64                  | 64          | —           |
| 長期借入金        | 637                 | 639         | 1           |
| 負債計          | 6,688               | 6,690       | 1           |

(注1) 金融商品の時価の算定方法及び有価証券に関する事項

① 現金及び預金、受取手形及び売掛金並びに電子記録債権

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

② 有価証券及び投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっており、債券は取引金融機関から提示された価格によっております。

③ 支払手形及び買掛金、短期借入金並びに未払法人税等

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

④ 長期借入金

長期借入金の時価については、元利金の合計額を、新規に同様の借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっております。

(注2) 非上場株式(連結貸借対照表計上額218百万円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、投資有価証券には含めておりません。

## 退職給付に関する注記

### 1. 採用している退職給付制度の概要

当社及び連結子会社は、確定給付型の制度として、確定給付企業年金制度及び退職一時金制度を設けております。

### 2. 退職給付制度

#### (1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

|              |          |
|--------------|----------|
| 退職給付債務の期首残高  | 3,285百万円 |
| 勤務費用         | 151百万円   |
| 利息費用         | 8百万円     |
| 数理計算上の差異の発生額 | 2百万円     |
| 退職給付の支払額     | △134百万円  |
| 退職給付債務の期末残高  | 3,312百万円 |

#### (2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表

|              |          |
|--------------|----------|
| 年金資産の期首残高    | 1,225百万円 |
| 期待運用収益       | 36百万円    |
| 数理計算上の差異の発生額 | △36百万円   |
| 事業主からの拠出額    | 132百万円   |
| 退職給付の支払額     | △69百万円   |
| 年金資産の期末残高    | 1,289百万円 |

#### (3) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

|           |           |
|-----------|-----------|
| 退職給付債務    | 3,312百万円  |
| 年金資産      | △1,289百万円 |
| 退職給付に係る負債 | 2,022百万円  |

#### (4) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

|                 |        |
|-----------------|--------|
| 勤務費用            | 151百万円 |
| 利息費用            | 8百万円   |
| 期待運用収益          | △36百万円 |
| 数理計算上の差異の費用処理額  | 87百万円  |
| 確定給付制度に係る退職給付費用 | 210百万円 |

#### (5) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は、次のとおりであります。

|             |        |
|-------------|--------|
| 未認識数理計算上の差異 | 407百万円 |
| 合計          | 407百万円 |

(6) 年金資産に関する事項

① 年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりであります。

|      |        |
|------|--------|
| 債券   | 40.0%  |
| 株式   | 29.7%  |
| 一般勘定 | 27.2%  |
| その他  | 3.1%   |
| 合計   | 100.0% |

② 長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

(7) 数理計算上の計算基礎に関する事項

|           |      |
|-----------|------|
| 割引率       | 0.3% |
| 長期期待運用収益率 | 3.0% |

## 1 株当たり情報に関する注記

|               |           |
|---------------|-----------|
| 1. 1株当たり純資産額  | 5,849円17銭 |
| 2. 1株当たり当期純利益 | 318円86銭   |

# 貸借対照表

(2019年3月31日現在)

(単位：百万円)

| 科 目             | 金 額    | 科 目              | 金 額    |
|-----------------|--------|------------------|--------|
| (資産の部)          |        | (負債の部)           |        |
| <b>流動資産</b>     | 7,917  | <b>流動負債</b>      | 6,699  |
| 現金及び預金          | 2,314  | 支払手形             | 1,594  |
| 受取手形            | 1,019  | 買掛金              | 839    |
| 売掛金             | 2,247  | 短期借入金            | 3,175  |
| 電子記録債権          | 307    | 未払金              | 138    |
| 製品              | 167    | 未払費用             | 417    |
| 仕掛品             | 1,379  | 未払法人税等           | 26     |
| 原材料             | 328    | 預り金              | 329    |
| 前払費用            | 17     | 設備関係支払手形         | 93     |
| その他             | 137    | 設備関係未払金          | 46     |
| 貸倒引当金           | △2     | その他              | 38     |
| <b>固定資産</b>     | 6,017  | <b>固定負債</b>      | 2,811  |
| <b>有形固定資産</b>   | 2,582  | 長期借入金            | 637    |
| 建物              | 697    | 預り保証金            | 311    |
| 構築物             | 36     | 退職給付引当金          | 1,615  |
| 機械及び装置          | 249    | 繰延税金負債           | 213    |
| 車輛運搬具           | 5      | その他              | 33     |
| 工具、器具及び備品       | 46     | <b>負債合計</b>      | 9,510  |
| 土地              | 1,403  | (純資産の部)          |        |
| リース資産           | 51     | <b>株主資本</b>      | 3,654  |
| 建設仮勘定           | 92     | 資本金              | 1,641  |
| <b>無形固定資産</b>   | 99     | 資本剰余金            | 1,225  |
| <b>投資その他の資産</b> | 3,335  | 資本準備金            | 532    |
| 投資有価証券          | 2,915  | その他資本剰余金         | 693    |
| 関係会社株式          | 110    | <b>利益剰余金</b>     | 936    |
| 関係会社出資金         | 210    | その他利益剰余金         | 936    |
| その他             | 123    | 繰越利益剰余金          | 936    |
| 貸倒引当金           | △22    | <b>自己株式</b>      | △148   |
|                 |        | 評価・換算差額等         | 769    |
|                 |        | その他有価証券評価差額金     | 769    |
|                 |        | <b>純資産合計</b>     | 4,424  |
| <b>資産合計</b>     | 13,934 | <b>負債及び純資産合計</b> | 13,934 |

(注) 記載金額は、百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

# 損益計算書

(2018年4月1日から  
2019年3月31日まで)

(単位：百万円)

| 科 目                   | 金   | 額      |
|-----------------------|-----|--------|
| 売 上 高                 |     | 10,060 |
| 売 上 原 価               |     | 8,227  |
| 売 上 総 利 益             |     | 1,833  |
| 販 売 費 及 び 一 般 管 理 費   |     | 1,660  |
| 営 業 利 益               |     | 173    |
| 営 業 外 収 益             |     |        |
| 受 取 利 息 及 び 配 当 金     | 109 |        |
| 雑 収 入                 | 66  | 176    |
| 営 業 外 費 用             |     |        |
| 支 払 利 息               | 46  |        |
| 雑 支 出                 | 44  | 90     |
| 経 常 利 益               |     | 258    |
| 税 引 前 当 期 純 利 益       |     | 258    |
| 法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税 | 45  |        |
| 法 人 税 等 調 整 額         | 16  | 61     |
| 当 期 純 利 益             |     | 196    |

(注) 記載金額は、百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

## 株主資本等変動計算書

(2018年4月1日から  
2019年3月31日まで)

(単位：百万円)

|                         | 株 主 資 本 |           |                |              |                                        |
|-------------------------|---------|-----------|----------------|--------------|----------------------------------------|
|                         | 資 本 金   | 資 本 剰 余 金 |                |              | 利 益 剰 余 金                              |
|                         |         | 資本準備金     | そ の 他<br>資本剰余金 | 資本剰余金<br>合 計 | そ の 他<br>利益剰余金<br>繰越利益<br>剰 余 金<br>合 計 |
| 当 期 首 残 高               | 1,641   | 532       | 693            | 1,225        | 804                                    |
| 当 期 変 動 額               |         |           |                |              |                                        |
| 剰 余 金 の 配 当             |         |           |                |              | △65                                    |
| 当 期 純 利 益               |         |           |                |              | 196                                    |
| 自己株式の取得                 |         |           |                |              |                                        |
| 株主資本以外の項目の<br>当期変動額(純額) |         |           |                |              |                                        |
| 当期変動額合計                 | －       | －         | －              | －            | 131                                    |
| 当 期 末 残 高               | 1,641   | 532       | 693            | 1,225        | 936                                    |

(単位：百万円)

|                         | 株 主 資 本 |                | 評 価 ・ 換 算 差 額 等  |                        | 純資産合計 |
|-------------------------|---------|----------------|------------------|------------------------|-------|
|                         | 自己株式    | 株 主 資 本<br>合 計 | その他有価証券<br>評価差額金 | 評 価 ・ 換 算<br>差 額 等 合 計 |       |
| 当 期 首 残 高               | △148    | 3,523          | 1,009            | 1,009                  | 4,532 |
| 当 期 変 動 額               |         |                |                  |                        |       |
| 剰 余 金 の 配 当             |         | △65            |                  |                        | △65   |
| 当 期 純 利 益               |         | 196            |                  |                        | 196   |
| 自己株式の取得                 | △0      | △0             |                  |                        | △0    |
| 株主資本以外の項目の<br>当期変動額(純額) |         |                | △239             | △239                   | △239  |
| 当期変動額合計                 | △0      | 131            | △239             | △239                   | △108  |
| 当 期 末 残 高               | △148    | 3,654          | 769              | 769                    | 4,424 |

(注) 記載金額は、百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

## 個 別 注 記 表

### 重要な会計方針に係る事項に関する注記

#### 1. 資産の評価基準及び評価方法

##### (1) 有価証券の評価基準及び評価方法

子会社株式及び関連会社株式……移動平均法による原価法

その他有価証券

時価のあるもの……………期末日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております。）

時価のないもの……………移動平均法による原価法

##### (2) たな卸資産の評価基準及び評価方法

製品及び仕掛品……………主として総平均法

原材料……………移動平均法

なお、評価基準については、原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）によっております。

#### 2. 固定資産の減価償却の方法

##### (1) 有形固定資産

（リース資産を除く）

定率法によっております。ただし、1998年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備は除く）並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。主な耐用年数は、建物（3年～50年）、機械及び装置（12年）であります。

##### (2) 無形固定資産

（リース資産を除く）

定額法によっております。  
なお、ソフトウェア（自社利用分）については、社内における利用可能期間（5年）で償却しております。

##### (3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引は、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

### 3. 引当金の計上基準

#### (1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

#### (2) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当事業年度末において発生していると認められる額を計上しております。

なお、退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌事業年度から費用処理することとしております。

### 4. その他計算書類の作成のための基本となる重要な事項

#### (1) 退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異の会計処理の方法は、連結計算書類における会計処理の方法と異なっております。

#### (2) 消費税等の会計処理

税抜方式によっております。

## 表示方法の変更

『税効果会計に係る会計基準』の一部改正（企業会計基準第28号 平成30年2月16日）に伴う、「会社法施行規則及び会社計算規則の一部を改正する省令」（法務省令第5号 平成30年3月26日）を当事業年度から適用し、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示する方法に変更しております。

## 貸借対照表に関する注記

### 1. 担保に供している資産及び担保に係る債務

#### (1) 担保に供している資産

|        |          |
|--------|----------|
| 現金及び預金 | 73百万円    |
| 受取手形   | 275百万円   |
| 建物     | 65百万円    |
| 機械及び装置 | 0百万円     |
| 土地     | 364百万円   |
| 投資有価証券 | 476百万円   |
| 合 計    | 1,256百万円 |

#### (2) 担保に係る債務

|                    |          |
|--------------------|----------|
| 短期借入金              | 1,325百万円 |
| 長期借入金(1年内返済予定額を含む) | 271百万円   |
| 合 計                | 1,597百万円 |

2. 有形固定資産の減価償却累計額 7,478百万円

### 3. 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務

|        |        |
|--------|--------|
| 短期金銭債権 | 920百万円 |
| 短期金銭債務 | 19百万円  |

## 損益計算書に関する注記

### (関係会社との取引高)

#### 営業取引による取引高

|     |          |
|-----|----------|
| 売上高 | 2,113百万円 |
| 仕入高 | 163百万円   |

営業取引以外の取引高 30百万円

## 株主資本等変動計算書に関する注記

### 自己株式の種類及び株式数

| 自己株式の種類 | 当事業年度期首株式数 | 当事業年度末株式数 |
|---------|------------|-----------|
| 普通株式(株) | 82,659     | 82,751    |

## 税効果会計に関する注記

繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

### 繰延税金資産

|          |      |
|----------|------|
| 貸倒引当金    | 100  |
| 未払賞与     | 51   |
| 投資有価証券   | 87   |
| 減損損失     | 90   |
| 退職給付引当金  | 492  |
| その他      | 60   |
| 繰延税金資産小計 | 785  |
| 評価性引当額   | △690 |
| 繰延税金資産合計 | 94   |

### 繰延税金負債

|              |     |
|--------------|-----|
| その他有価証券評価差額金 | 307 |
| 繰延税金負債合計     | 307 |
| 繰延税金負債の純額    | 213 |

## 関連当事者との取引に関する注記

子会社及び関連会社等

| 属性  | 会社等の名称    | 議決権の所有<br>(被所有)割合(%) | 関連当事者との関係        | 取引の内容 | 取引金額<br>(百万円) | 科目                    | 期末残高<br>(百万円)     |
|-----|-----------|----------------------|------------------|-------|---------------|-----------------------|-------------------|
| 子会社 | 昭和ネオス株式会社 | 100.0                | 当社製品の販売<br>役員の兼任 | 製品の販売 | 2,113         | 受取手形<br>電子記録債権<br>売掛金 | 495<br>124<br>226 |

取引条件及び取引条件の決定方針等

- (1) 製品の販売については、取引条件は一般取引条件と同じであり、価格については都度見積りを提示し交渉により決定しております。
- (2) 取引金額には消費税等は含まれておりません。受取手形、売掛金の期末残高には消費税等は含まれております。

## 1株当たり情報に関する注記

- 1株当たり純資産額 5,433円75銭
- 1株当たり当期純利益 241円44銭

## 重要な後発事象に関する注記

(連結子会社の吸収合併)

当社は、2018年11月14日開催の取締役会決議に基づき、2019年4月1日を効力発生日として、連結子会社である昭和ネオス株式会社を吸収合併いたしました。

### 1. 取引の概要

#### (1) 結合当事企業の名称及び事業の内容

結合当事企業の名称 昭和ネオス株式会社

事業の内容 空調機器、ボイラー等の販売、メンテナンス、取替工事

#### (2) 企業結合日 2019年4月1日

#### (3) 企業結合の法的形式

当社を存続会社とする吸収合併方式であります。

(注) 本合併は、当社においては会社法第796条第2項に定める簡易合併であり、昭和ネオス株式会社においては会社法第784条第1項に定める略式合併であるため、いずれも吸収合併契約の承認に関する株主総会は開催いたしませんでした。

#### (4) 企業結合後企業の名称 昭和鉄工株式会社

#### (5) その他取引の概要に関する事項

当社は、中期経営計画のもと、製造部門と営業・サービス部門の連携を強化し、品質とサービスの向上を図っておりますが、その一環として今後さらに営業・サービスの顧客接点力強化の推進及び顧客満足度と収益の最大化を図るため、グループ内の営業部門（当社）とサービス部門（昭和ネオス株式会社）の再編と効率的な業務運営基盤の確立を行うものであります。

### 2. 実施する会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」に基づき、共通支配下の取引として処理する予定であります。

## その他の注記

該当事項はありません。

# 連結計算書類に係る会計監査人の監査報告書 謄 本

## 独立監査人の監査報告書

2019年5月21日

昭和鉄工株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 宮本 芳樹 ㊞

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 中野 宏治 ㊞

当監査法人は、会社法第444条第4項の規定に基づき、昭和鉄工株式会社の2018年4月1日から2019年3月31日までの連結会計年度の連結計算書類、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表について監査を行った。

### 連結計算書類に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結計算書類を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結計算書類を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結計算書類に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結計算書類に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結計算書類の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結計算書類の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結計算書類の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結計算書類の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、上記の連結計算書類が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、昭和鉄工株式会社及び連結子会社からなる企業集団の当該連結計算書類に係る期間の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

# 会計監査人の監査報告書 謄 本

## 独立監査人の監査報告書

2019年5月21日

昭和鉄工株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 宮本芳樹 ㊞

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 中野宏治 ㊞

当監査法人は、会社法第436条第2項第1号の規定に基づき、昭和鉄工株式会社の2018年4月1日から2019年3月31日までの第97期事業年度の計算書類、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表並びにその附属明細書について監査を行った。

### 計算書類等に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して計算書類及びその附属明細書を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない計算書類及びその附属明細書を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から計算書類及びその附属明細書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に計算書類及びその附属明細書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、計算書類及びその附属明細書の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による計算書類及びその附属明細書の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、計算書類及びその附属明細書の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての計算書類及びその附属明細書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、上記の計算書類及びその附属明細書が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、当該計算書類及びその附属明細書に係る期間の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 強調事項

重要な後発事象に記載されているとおり、会社は、2019年4月1日を効力発生日として、完全子会社である昭和ネオス株式会社を吸収合併した。

当該事項は、当監査法人の意見に影響を及ぼすものではない。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

# 監査役会の監査報告書 謄本

## 監 査 報 告 書

当監査役会は、2018年4月1日から2019年3月31日までの第97期事業年度の取締役の職務の執行に関して、各監査役が作成した監査報告書に基づき、審議の上、本監査報告書を作成し、以下のとおり報告いたします。

### 1. 監査役及び監査役会の監査の方法及びその内容

- (1) 監査役会は、監査の方針、職務の分担等を定め、各監査役から監査の実施状況及び結果について報告を受けるほか、取締役等及び会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。
- (2) 各監査役は、監査役会が定めた監査役監査の基準に準拠し、監査の方針、職務の分担等に従い、取締役、内部監査室その他の使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、以下の方法で監査を実施しました。

- ① 取締役会その他重要な会議に出席し、取締役及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、本社及び主要な事業所において業務及び財産の状況を調査いたしました。また、子会社については、子会社の取締役及び監査役等と意思疎通及び情報の交換を図り、必要に応じて子会社から事業の報告を受けました。
- ② 事業報告に記載されている取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他株式会社及びその子会社から成る企業集団の業務の適正を確保するために必要なものとして会社法施行規則第100条第1項及び第3項に定める体制の整備に関する取締役会決議の内容及び当該決議に基づき整備されている体制（内部統制システム）について、取締役及び使用人等からその構築及び運用の状況について定期的に報告を受け、必要に応じて説明を求め、意見を表明いたしました。
- ③ 会計監査人が独立の立場を保持し、かつ、適正な監査を実施しているかを監視及び検証するとともに、会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。また、会計監査人から「職務の遂行が適正に行われることを確保するための体制」（会社計算規則第131条各号に掲げる事項）を「監査に関する品質管理基準」（平成17年10月28日企業会計審議会）等に従って整備している旨の通知を受け、必要に応じて説明を求めました。

以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書、計算書類（貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表）及びその附属明細書並びに連結計算書類（連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表）について検討いたしました。

## 2. 監査の結果

### (1) 事業報告等の監査結果

- ① 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、会社の状況を正しく示しているものと認めます。
- ② 取締役の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。
- ③ 内部統制システムに関する取締役会決議の内容は相当であると認めます。また、当該内部統制システムに関する事業報告の記載内容及び取締役の職務の執行についても、指摘すべき事項は認められません。

### (2) 計算書類及びその附属明細書の監査結果

会計監査人 有限責任監査法人トーマツの監査の方法及び結果は相当であると認めます。

### (3) 連結計算書類の監査結果

会計監査人 有限責任監査法人トーマツの監査の方法及び結果は相当であると認めます。

2019年5月22日

昭和鉄工株式会社 監査役会

常勤監査役 山根 譲 治 ㊟

社外監査役 吉田 泰彦 ㊟

社外監査役 村上 英之 ㊟

以 上

# 株主総会参考書類

## 議案及び参考事項

### 第1号議案 剰余金の処分の件

剰余金の処分につきましては、次のとおりといたしたいと存じます。

#### 期末配当に関する事項

当社は、株主の皆様への安定的な配当の継続を最重要課題と位置づけており、加えて企業業績の他、今後予想される競争激化に耐えうるための経営効率化、新製品開発に備えるための内部留保の充実を勘案し、配当を行うことを基本方針としております。

第97期の期末配当につきましては、当期の業績、今後の経営環境の見通し等を勘案したうえで、1株につき50円とさせていただきたいと存じます。

- (1) 配当財産の種類  
金銭
- (2) 株主に対する配当財産の割当てに関する事項及びその総額  
当社普通株式1株につき金50円  
総額40,712,450円
- (3) 剰余金の配当が効力を生じる日  
2019年6月27日

## 第2号議案 取締役6名選任の件

取締役全員（6名）は、本總會終結の時をもって任期満了となりますので、取締役6名の選任をお願いするものであります。

取締役候補者は、次のとおりであります。

| 候補者番号 | 氏名<br>(生年月日)                         | 略歴、地位、担当及び重要な兼職の状況                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 所有する当社株式の数 |
|-------|--------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|
| 1     | ふくだ としひと<br>福田 俊仁<br>(1954年9月28日生)   | 1979年4月 空研機工株式会社入社<br>1985年4月 西邦電機株式会社入社<br>1986年7月 当社入社<br>2006年4月 機器・装置事業本部環境空調事業部長兼技術部長<br>2010年4月 執行役員総合開発部長兼商品開発部長<br>2013年6月 取締役執行役員総合開発部長兼商品開発部長<br>2015年4月 取締役副社長執行役員総合開発部長兼構造改革推進部長<br>2015年6月 代表取締役社長CEO総合開発部長兼構造改革推進部長<br>2017年4月 代表取締役社長CEO<br>現在に至る                                     | 3,300株     |
| 2     | なべやま としろう<br>鍋山 敏郎<br>(1954年11月11日生) | 1978年4月 日立造船シーピーアイ株式会社入社<br>1988年5月 当社入社<br>2004年4月 サーマデバイス事業部業務管理室長<br>2005年4月 人事部長<br>2008年4月 機器・装置事業本部サーモデバイスBU長兼品質管理部長<br>2012年4月 執行役員企画戦略部経営企画室長<br>2014年4月 執行役員総務管理部長兼総務部長兼海外事業室長<br>2015年6月 取締役執行役員総務統括部長兼海外事業室長兼内部監査室長<br>2017年4月 取締役常務執行役員管理統括部長兼海外事業室長<br>2018年4月 取締役常務執行役員管理統括部長<br>現在に至る | 1,900株     |
| 3     | くらおか あつし<br>倉岡 淳<br>(1956年7月6日生)     | 1982年4月 当社入社<br>2001年4月 環境空調事業部営業部長<br>2002年4月 大連氷山空調設備有限公司副総経理<br>2007年4月 当社機器・装置事業本部環境空調事業部ソリューション部長<br>2010年4月 機器装置事業部長兼営業部長<br>2012年4月 執行役員機器装置事業部長<br>2013年4月 執行役員事業統括部長<br>2015年6月 取締役執行役員事業統括部長<br>2017年4月 取締役常務執行役員事業統括部長<br>2018年4月 取締役常務執行役員事業統括部長兼営業・サービス本部長<br>現在に至る                     | 2,700株     |

| 候補者番号 | 氏名<br>(生年月日)                        | 略歴、地位、担当及び重要な兼職の状況                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 所有する当社株式の数 |
|-------|-------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|
| 4     | ひのひろあき<br>日野 宏 昭<br>(1961年1月23日生)   | 1983年4月 当社入社<br>2006年4月 機器・装置事業本部環境空調事業部特販部長<br>2008年4月 機器・装置事業本部営業統括部特販部長兼空調環境BU技術部長<br>2010年4月 機器装置事業部技術部長<br>2013年4月 事業統括部素材材BU長兼技術部長<br>2015年4月 執行役員事業統括部副統括部長兼素材材事業部長<br>2016年4月 執行役員事業統括部技術・製造本部長兼素材材事業部長<br>2017年4月 上級執行役員事業統括部技術・製造本部長<br>2017年6月 取締役上級執行役員事業統括部技術・製造本部長<br>2018年4月 取締役上級執行役員事業統括部技術・製造本部長兼構造改革推進部長<br>現在に至る | 1,500株     |
| 5     | むらせひろき<br>村 瀬 廣 記<br>(1956年2月17日生)  | 1979年4月 西部瓦斯株式会社入社<br>2007年7月 同 リビング営業本部営業設備部部长<br>2009年7月 同 エネルギー統轄本部リビングエネルギー本部営業設備部長<br>2011年4月 大牟田瓦斯株式会社常務取締役<br>2013年4月 西部瓦斯株式会社執行役員長崎支社長<br>2015年4月 同 常務執行役員長崎支社長<br>2016年6月 同 取締役常務執行役員<br>2017年4月 同 代表取締役副社長執行役員<br>現在に至る<br>2018年6月 当社社外取締役<br>現在に至る                                                                        | 0株         |
| 6     | まつおとしひろ<br>松 尾 利 浩<br>(1960年12月2日生) | 1984年4月 西日本鉄道株式会社入社<br>2008年6月 同 住宅事業本部戸建住宅事業部長<br>2011年7月 同 住宅事業本部副本部長兼マンション事業部長<br>2014年6月 同 執行役員住宅事業本部副本部長兼マンション事業部長<br>2015年6月 同 取締役執行役員住宅事業本部長<br>2016年6月 同 上席執行役員住宅事業本部長<br>2017年6月 同 上席執行役員都市開発事業本部長<br>当社社外取締役<br>現在に至る<br>2019年4月 西日本鉄道株式会社上席グループ理事<br>現在に至る<br>株式会社スピナ代表取締役社長<br>現在に至る                                     | 0株         |

- (注) 1. 各取締役候補者と当社との間に特別の利害関係はありません。
2. 村瀬廣記氏及び松尾利浩氏は、社外取締役候補者であります。
- なお、当社は村瀬廣記氏及び松尾利浩氏につき一般株主と利益相反が生じるおそれのない高い独立性を有していると判断し、福岡証券取引所の定めに基づく独立役員として届け出ており、両氏の再任が承認された場合、引き続き独立役員としての届出を継続する予定であります。
3. 社外取締役候補者の選任理由等
- 村瀬廣記氏につきましては、経営に関する専門的な知識・経験等を当社の経営全般に活かしていただくため、社外取締役として選任をお願いするものであります。
- なお、同氏の当社社外取締役就任期間は本総会終結の時をもって1年となります。
- また、松尾利浩氏につきましては、経営に関する専門的な知識・経験等を当社の経営全般に活かしていただくため、社外取締役として選任をお願いするものであります。
- なお、同氏の当社社外取締役就任期間は本総会終結の時をもって2年となります。
4. 社外取締役との責任限定契約について
- 当社は社外取締役として有能な人材を迎えることができるよう、社外取締役との間で、当社への損害賠償責任を一定範囲に限定する契約を締結できる旨を定款に定めており、社外取締役候補者である村瀬廣記氏及び松尾利浩氏は、当社との間で当該責任限定契約を締結しており、両氏の再任が承認された場合、当社は両氏との間の当該責任限定契約を継続する予定であります。
- その契約内容の概要は次のとおりであります。
- ・社外取締役が任務を怠ったことによって当社に損害賠償責任を負う場合は、会社法第427条第1項の規定により、同法第423条第1項の賠償責任を限定する。
  - ・上記の責任限定が認められるのは、社外取締役がその責任の原因となった職務の執行について善意でかつ重大な過失がないときに限るものとする。
5. 会社法施行規則第74条に定める、取締役の選任に関する議案に記載すべき事項につきましては、上記の他に特記すべき事項はありません。

### 第3号議案 監査役1名選任の件

監査役3名のうち、山根譲治氏は本総会終結の時をもって任期満了となりますので、監査役1名の選任をお願いするものであります。

なお、本議案に関しましては、監査役会の同意を得ております。

監査役候補者は、次のとおりであります。

| 氏名<br>(生年月日)                       | 略歴、地位及び重要な兼職の状況                                                                                                                                            | 所有する当社<br>株式の数 |
|------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------|
| やまね じょうじ<br>山根 譲治<br>(1953年7月20日生) | 1976年4月 セキスイハイム中四国株式会社入社<br>1990年11月 当社入社<br>2005年4月 経理部長<br>2006年4月 財務本部経理部長兼関係会社管理室長<br>2012年4月 執行役員財務統括部経理部長<br>2013年4月 社長付<br>2013年6月 監査役(常勤)<br>現在に至る | 1,000株         |

- (注) 1. 監査役候補者と当社との間に特別の利害関係はありません。  
2. 会社法施行規則第76条に定める、監査役の選任に関する議案に記載すべき事項につきましては、上記の他に特記すべき事項はありません。

以 上

# 株主総会会場のご案内図

- 場 所 福岡県糟屋郡宇美町大字宇美3351番地 8  
当 社 宇美工場会議室  
電 話 (092) 933-6391



## ■交通機関

- 西鉄バスご利用の場合  
「博多バスターミナル」から系統番号37番で約50分  
「早見工業団地」下車 徒歩約3分
- J Rご利用の場合  
「宇美駅」から徒歩約20分 または  
西鉄バス「J R宇美駅」から系統番号37番で約4分  
「早見工業団地」下車 徒歩約3分
- お車でお越しの場合  
福岡空港より約25分  
博多駅より約40分